

香川大学の第4期中期計画期間(R4~9年度)に附属学校に求められること

- ◎学部・研究科との緊密な連携の下に、高松・坂出の2地区にある附属学校園の強みと特色を生かした先導的な教育・研究活動を推進するとともに、地域の教育力向上に貢献する機能及び教育実習・研修機関としての機能を強化する。
- 附属坂出学園は、幼小中が一貫性・連続性をもちながら、主体的学びや発達支援の視点から教育・研究の充実を図るとともに、地域の教育力向上に貢献する機能及び教員養成・研修機能を強化する。

I 本校の教育目標

学びをつくる子供の育成

めざす子供像

- 自主・自律:心も体もたくましく、自ら積極的に人ものことに関わり、自己を振り返り磨き続ける子供
- 共生・協働:仲間と共に生き、自他や地域を大切にし、進んで誰かの役に立とうとする子供
- 探究・創造:学びを生かし、様々な分野について探究する中で、よりよい生き方を創造していく子供

学級数12,児童数416名



子供理解に立って

附属坂出小学校の職員として

- ・歴史と伝統を受け継ぎ、実践研究に全力を傾け、地域に貢献する。
- ・大学、学部と連携し、教育実習等の使命を果たす。
- ・附属坂出学園として、一貫した教育を推進する。



校長1,副校長1,主幹教諭1,教諭15,養護教諭1,非常勤講師4(複担1,少人数1,JTE1,ALT1),支援員1,事務4,用務1,SC3,SSW1 計33名

II 特色ある教育活動(7つのプラン)

1 研究活動の充実

- ①地域の教育課題に応える分かりやすい実践研究の推進
- ②非認知能力に視点を当て、ユニバーサルデザイン教育や発達障害等の実態に応じた支援、ICT活用教育の推進
- ③幼小接続の共同研究と一般入学者へ適宜運用(子供理解、環境の調整、活動への導き方の視点)
- ④小中一貫の共同研究の推進(教科教育の充実)
- ⑤効果の発信と活用状況の把握
 - ・研究授業・研究会を公開
 - ・自主研授業を公開(理数の日)
 - ・HP、インスタグラム、フェイスブック、研究だよりでの広報活動
- ⑥学部教員との共同研究や科研費申請・採択の推進
- ⑦授業づくりワークショップの地域密着度を向上、研修記録制度への活用
 - ・教科ごとに地元公立学校教員とのつながりや人脈をつくり、日常的に研修できる場を提供

2 大学・学部との連携強化

- ①教員養成の核となる教育実習の充実
 - ・将来の教育界を担い、大切な子供を育てることになる学生に、教員のやりがいや伝え、指導力を身に付けられるようにする。
- ②教職大学院実習生の受け入れ
- ③特別教育実習の充実(市内公立校との連携の強化)
- ④インターンシップ型実習の推進
- ⑤医学部臨床コースとの協働(心の支援部の増員)

3 附属坂出学園としての一貫した教育

- ①12年間の学習観「主体的に意味を作り出していくプロセス」に基づく一貫した教育の推進
- ②インクルーシブな学校文化の醸成(配慮と工夫)
- ③附属型コミュニティースクールの実施と教育人材開発
- ④特別支援学校との継続交流(4年生)

4 県教委・公立学校への支援

- ①指導助言:坂綾小研、公立校の現職教育等
- ②香小研各教科部会等の研究・運営の推進
- ③坂綾校長会研修会を本校で実施。研究に対する意見交流の場とする。

5 豊かな心をはぐくむ体制づくり

- ①子供の意欲を重視しながら、あいさつと清掃態度の向上
- ②トラブル予防の徹底と問題状況への迅速な対応(事実確認、報告、謝罪のスピード)
- ③心に寄り添う学級経営の充実(ルールとリレーションの同時確立、「先生聞いてカード」の実施、且頃の丁寧な関わりと観察、共感的理解、Q-Uの利用)
- ④いいところさがし文化の醸成
- ⑤12年間の教育相談体制の充実(心の支援部との連携)
- ⑥インクルーシブな学校体制づくり(障害者理解の機会確保、病欠欠席、不登校の子供に授業をできるかぎり中継)

6 子供を育てる行事、環境づくり、安全衛生

- ①体育的行事(運動会等)、文化的行事(附小フェスタ等)
- ②ママーズ、OYG等(読み聞かせ、家庭科・外国語等学習支援、立哨、JR親の会等)
- ③毎週のロング昼休みの有効活用
- ④登下校の安全確保・マナーの向上
- ⑤防災避難体制の確立
- ⑥居場所づくり(松風園給食、自然の国、バッタメダカランド、ひなたぼっこテラス等)

7 改善に生かす評価、効率的学校運営

- ①成果の見える学校評価(成果と課題を共有したボトムアップの改善策)
- ②目標申告の実施(年3回)
- ③働き方改革の推進(超過勤務時間月45時間以内、年間360時間以内を目安、年休取得義務5日、加えて授業日の指定年休2日、行事削減、サポートスタッフの実施)
- ④職員の心身両面での健康推進
- ⑤校務や教育にICTを活用(会議やアンケートのペーパーレス化、メールでの欠席連絡、学級懇談会や周知会のオンライン化、PC端末を活用した「先生聞いてカード」)
- ⑤授業の持ち時間数を週22時間以内とし、優先補欠制度で出張や個別支援に対応